



独自の サッカー観を 作る方法

あなたは、サッカーの
本質を知っていますか？

トシヒロ

プロローグ

独自のサッカー観をみにつけるとどんな良いことがあるのだろうか？

サッカーをみるのが楽しくなる。

他の人にサッカーの話をしたくなる。

サッカーをプレーするときに、
相手選手が予想もしないような
トリッキーなプレーができる。

監督や指導者として、
他の人とはまったく違うオリジナルの
サッカーができる。

このように、メリットはたくさんあります。

いますぐ、あなたも独自のサッカー観をみにつけ、
サッカーの世界を思う存分、楽しみましょう。

この本は、そんなハッピーな状態になれるように、

段階的にマスターできるようにこまかく説明しています。

第1章

私がサッカーをみはじめたのは、中学1年生の時だった。
兄が高校への入学が決まり、ちょうど時間ができた。
兄と父と私は、3人でサッカーの試合をみにいった。

試合は京都サンガ対ヴィッセル神戸のプレーシーズンマッチだった。

この試合をきっかけに、私はサッカーの面白さを知り、
サッカーファンになったのだ。

サッカーをみるとき、普段サッカーをみない人は、
ボールのところだけをみてしまう。
ボールの動くところだけをみていて、
ボールとは違うもっと遠くのところがみえていないのだ。
まわりの選手の動きが見えていなくて、
ゴールに入ってもなぜ、入ったのかはわからないのである。
まわりの選手の動きもしっかりみること、
次に何が起こるのか予測することができる。
サッカーとは次に何が起こるのか予測するスポーツだ。

女子サッカーの試合をみると動きがゆっくりで、
わかりやすいという人がいた。
確かにいわれてみればそうなのかもしれない。
プレーのスピードが遅ければ、みるほうも楽である。
これは面白い指摘だ。
このことをいった人は、独自のサッカー観をもっているのである。
こういう面白い発想は、他の人の本を読んでいるだけでは、
なかなかみにつみにくい。
こういう他人がきいて面白い考え方をできるようになるには、
どうすればいいのか。
それをこの本に書いた。

第1章 試合をたくさん見る

サッカーファンは自分の頭で独自のサッカー観を作るべきである。
他の有名な人が書いた本などを読んでわかったつもりになってはいけない。
自分の頭でしっかり考えて、それを元にサッカーをみるのが、
1番楽しいのである。
自分のサッカー観を否定してはいけない。
もしかしたら間違っているのかもしれない。
自分のサッカーの見方は正しくないのかもしれない。
そう思ったとしても、他の人の意見をそのままのみにして、
サッカーをみるほど面白くないことは無い。

では、どうすれば独自のサッカー観を作ることができるのか？
それは、たくさん試合をみることだ。
とにかく、たくさん試合をみて、サッカーとはどういうスポーツなのかを知ることが、
重要なのだ。
ステップ1
まず、試合をたくさんみる。

第2章 録画する

ステップ2

録画する。

実は試合を単純にみるだけではサッカーの理解はあまり深まらないのである。最初の試合をみるときは、わくわくドキドキして楽しい。同じ試合をもう1度みようと思う人は少ないのかもしれない。しかし、本当にサッカーが好きになってくると何度もみたくなるものなのだ。

ゴールを決まった要因とかそのチームがなぜ勝ったのかなど、大事な部分は1度みただけでは、なかなかわからないのである。そこで、同じ試合を2回、3回 繰り返しみる必要がある。そのために試合を録画する必要がある。最初はゴールが決まったシーンだけを中心にみてもかまわない。点をとったシーンや失点したシーンを中心にみていこう。点が入ったシーンはサッカーファンなら何度でもみたくなるだろう。ポジショニングに注目してみよう。キックの質もみてみよう。みるべきところは意外に多い。

それではドリブルだけに注目してみよう。

ドリブルで相手を抜くシーンはサッカーをみていて2番目に興奮するシーンだろう。

1番目はゴールが決まったときだ。

ドリブルをみるときのポイントはたくさんある。

1つ目は、緩急。

ブラジルの選手が得意なプレーだ。

ブラジルの選手は自陣ではゆっくりしたプレーが多いが、

相手ペナルティエリア近くにくると一気に加速する。

ドリブルも同じだ。

ゆっくりドリブルして相手を油断させて、いきなりスピードアップして相手を抜き去る。

これが緩急をつけるということだ。

フェイントなんていならない。

ずっと高速でドリブルする必要は実は無いのだ。

重要なのはむしろスピードをあげたり下げたりすることである。

同じスピードなら守備をするときも簡単に相手の動きが予測できてしまう。

そうなると相手は簡単にボールを奪うことができるのだ。

ゆっくり、はやくこの切り替えが重要なのである。

とん、とん、とん。というようなタイミングのボールタッチでは駄目なのだ。

とん、とん、とっとーん。こんな感じでいくと相手選手を抜くことができる。

第3章 90分間見る

ステップ3

試合を1試合通してみる。

今度は試合を1試合通して最初から最後までみてみよう。

90分間すべて、みるのだ。

まだ、繰り返しみる気がしない人は、

みなくてかまわない。

まだ、あなたはその段階に達していないのだ。

無理をして、いやいや試合をみる必要は無い。

無理してみるくらいなら、みないほうが良い。

試合を繰り返し、みたくなったとき、そのときに見れば良いのだ。

サッカーを見続ければ、自然と1週間に3から4回同じ試合をみたくなるものなのだ。

私も子供のときは、何度も同じ試合を繰り返し見て、

そのたびにおもしろい発見があり楽しかった。

第4章 サッカーノートをつける

ステップ4

サッカーノートをつける。

今度をはサッカーノートをつけてみよう。

中村俊輔選手もやっているあれだ。

サッカーノートとは普通は、試合が終わったなどに、
選手が自分のプレーを振り返るために、自分のプレーで良かった事や、
悪かったことを書くものだ。

しかし、今回、ここでいうサッカーノートはそういう使い方だけをするわけではない。

Jリーグなどのサッカーの試合をみて、試合中に思ったことをかくものなのである。

サッカーノートのつけかたは、どうでも良い。

とにかくおもったことをどんどん書けば良い。

例えば、中村選手のドリブルはうまかった。今のパスはすごかったなど。

とりあえず、思ったことを試合をみながらどんどんノートに書いていこう。

あまり形式にこだわってはいけない。

自分が書きたいようかけばいいのだ。

自分であらたなサッカーノートの書き方をつくるくらいの勢いで、

ノートをとれば良い。

人の真似をする必要は無いのだ。

第5章 認められる

ステップ5

ここまで、くればあなたは、だいぶサッカーについて詳しくなっているはずだ。

他の人にサッカーの話をしてみよう。

相手がいなければ、ブログや掲示板でもかまわない。

あなたの書いたことは、認められあなたは気分をよくすることだろう。

あなたがサッカーをみて、感じたことをブログにかいてみましょう。

ブログとは無料で作成できてネットに公開できる日記です。

詳しくは検索して調べてください。

日記を公開するなんて恥ずかしい・・・。

最初はみんな思うかもしれません。

しかし、意外にも思うのは最初だけで慣れれば恥ずかしくありません。

好きなことを好きなだけかければ良いのです。

ブログは意外にも友達や知り合いに自分のことを話すよりも気楽です。

友達に自分のことを話すのは意外にもかなり恥ずかしいと思います。

本音なんてなかなか言えるものではありません。

しかし、ブログだと意図も簡単に言えていますのです。

なぜなのでしょうね？(笑)

不思議です。

第6章 サッカーノートの進化

ステップ6

サッカーノートを進化させよう。

どんどんサッカーノートを進化させてみよう。

たとえば、さっきのプレーのメモの横に試合の時間をかいてみてはどうだろうか。

前半20分 中村の左からのクロスを田中が左足でボレーシュート。

こんな感じだ。

余裕があれば、図などをつかってどんなプレーだったかを書いてもいい。

スタメンの選手の名前を書いたり、フォーメーションを書いたりいろいろやってみよう。

とにかくたくさん書くことだ。

とにかく、自由に楽しく、自分の好きなようにサッカーノートにかきまくればいいのだ。

書いているとき、かなり楽しいだろう。

第7章 なぜかを考える

ステップ7

なぜかを考える。

自分がサッカーの試合をみながら書いたノートを見て、なぜそのプレーが起きたのかを考えてみよう。

例えば、後半40分に失点した場合。

左からのクロスの中野選手に決められた。

それはなぜか？

と考えるのだ。

考えられるものをどんどん書いていこう。

例えば、ポジショニングが悪かったとか、

体の使い方がわるかったとか。

いろいろあるだろう。

そういうことをノートをみながら、考えてみることだ。

こうして、ノートに書きながら考えることで、

あなたのサッカー観は完成していくのである。

あとがき

ここまで読んで、どうだっただろうか？

独自のおもしろいサッカー観をみにつけることはできそうだと思って、
いただけただろうか？

それとも、最後まで読んだけど、時間の無駄だったと思っただろうか？

人によって違うと思う。

良かったら読んだ感想を書いてくれると、うれしいです。

この本は、サッカーファンが独自の独創的なサッカー観を

みんなに、みにつけてもらい、日本のサッカー界のレベル向上に少しでも力になれば良いなと
思い、

執筆した。

来週から、週刊でJリーグ中心のサッカーの記事を連載していく予定です。

そちらの方も是非、読んでください。

よろしく申し上げます。